

筑波大学をやバくする ～なんやかんや就活(10031A)から サワッディーT-ACT(10037A)まで～

及川 直人(人間学群教育学類 平成22年度卒業)



はじめに

こんにちは。今年の3月に教育学類を卒業しました、及川直人と申します。T-ACTでは「なんやかんや就活」と「サワッディーT-ACT」に取り組みました。T-ACTの樫村先生から「筑波大生へ一言!」と言われましたので、寄稿させていただきました。

筑波大学をやバくする!?

「筑波大学に4年間いて、自分は筑波大学のために何かできないのかな～」なんてことを、4年生になった4月にふと考えていました。今にして思えばどうしてそんな考えにいたったのかわかりませんが、筑波大学でよかったな～と思うことが多かったので、何か恩返しがあったかっただけでしょう。

さて、何をしようと思ったときに出会ったのがT-ACTでした。「学生のやりたいを形にする」そんな言葉に惹かれて、筑波大学を自分なりに盛り上げていきたい。わたし流に言えば「筑波大学をやバくしたい!」という思いでT-ACTのドアをノックしたのです。

なんやかんや就活

T-ACTの活動としてまず最初に取り組んだのが「なんやかんや就活」です。これは、就活で苦しむ筑波大生が多いという現状を変えるために、就活生と内定者が気軽に接点を持つイベントができないだろうかと考え、実現したイベントです。

企業や公務員の内定者が1人1つブースを構え、就活生が話を聞きたい人のブースにいくという形式をとりました。合同説明会や企業の説明会には距離的な部分で億劫になってしまう就活生も、筑波で、先輩の内定者と話す、というスタイルなので、かなり気軽に足を運んでもらうことができました。

当日はメンバーのがんばりもあり、延べ人数で200人を超える学生に参加してもらうことができました。やはり、筑波大生のなかで就活に悩む学生が多いのだな、と確信したものです。

サワッディーT-ACT

「なんやかんや就活」が終わったあと、さらに「サワッディーT-ACT」というなんともふざけたタイトルの活動を開始しました。これは、T-ACTフォーラムで作業をしていたとき、樫村先生と事務の半田さんに私が少しだけタイ語が話せるということが発覚

してしまい、「それじゃあみんなでタイ語を勉強してみよう!」と、わずか数十分の間に活動開始が決まったものです。

スタートした経緯は勢いにあふれていますが、中身は決して勢い任せではなく、「タイ語を学生とT-ACTの職員さんで学ぶ」という目的を持っており。ほんの少しでも、自分のできることを通してT-ACTを知ってほしい、という思いがありました。

週1回、お昼を食べながら学生と教職員が5人ほどではありますが、集まってタイ語の勉強をする。なんとも奇妙なこの活動は私が卒業する直前まで続けられ、なんと参加者の中からタイに行く計画を練る人も出てきました。また、この活動をとおして初めてT-ACTに足を運ぶ人も多く、始まりはどうかと心配していましたが、なんとか形になりました。



ランチタイムに「サワッディー」

最後に

さてさて、散文的にT-ACTでの私の軌跡を書きましたがいかがでしたか。T-ACTは「学生のやりたいを形にしてくれる」場所だというのが少しでも伝われば幸いです。「なんやかんや就活」のように考えられた企画も「サワッディーT-ACT」のような勢いだけの企画も、どんな企画を持っていても樫村先生と半田さんは笑顔であなたの「やりたい」をサポートしてくれます。ふら～っとでも足を運んで

みてください。サワッディーと入り口で言ってみると二人がサワッディーと返してくれるかもしれませんよ。



T-ACTフォーラム
樫村先生(左)、
半田さん(右)と
筆者(中央)